

(3) トンボ類 (トンボ目)

1) 調査項目毎の採録した呼び名

① トンボ類 (総称)

ア 一般 (成虫)

- ・ 対象種 全てのトンボ
- ・ 採録した呼び名 トンボ (計1種)



イ 幼虫

- ・ 対象種 全てのトンボ
- ・ 採録した呼び名 トンボノガンゴージ、ヤゴ、ヤゴロ (計3種)
- ・ その他 水田に生息する「ヤマメ」等と呼ばれた水生昆虫は多くの集落でトンボの幼虫という認識であったが、形態等の聴き取りからゲンゴロウ・ガムシの幼虫と考えられたため本類としては採録しなかった。



①-2 飛翔様態からの呼び名

ア 水面上での飛翔又は産卵行動するもの

- ・ 対象種 トンボ
- ・ 採録した呼び名 スイスイトンボ (計1種)



イ 交尾でリング状となって飛翔するもの

- ・ 対象種 主にイトトンボ類、カワトンボ類のトンボ
- ・ 採録した呼び名 クルマトンボ、ジンリキトンボ、リンリキトンボ (計3種)



② 体の大小での区別からの呼び名

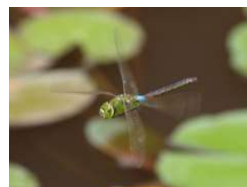
ア 大型のトンボ類一般

- ・ 対象種 オニヤンマ、ヤンマ類、サナエトンボ類等のトンボ
- ・ 採録した呼び名 オニトンボ、オニヤマトンボ、オニヤンマ、オヤトンボ、オヤマトンボ、オーヤマトンボ、カートンボ、カミナリトンボ、キートンボ、ゲンジトンボ、シマトンボ、トノサマトンボ、トノサントンボ、ヤマトンボ、ヤンマ、ヤンマトンボ、ラッポ、ラッポトンボ (計18種)
- ・ その他 尾部に黄色の縦縞が入った大型トンボ類



イ 銀色の大型トンボ

- ・ 対象種 ギンヤンマ
- ・ 採録した呼び名 ギヤマントンボ、ギントンボ、ギンヤマトンボ、ギンヤンマ (計4種)



ウ 夕方に飛び蚊を捕食する大型トンボ類

- ・ 対象種 カトリヤンマ、ヤブヤンマ等
- ・ 採録した呼び名 カークイトンボ、カトリトンボ、カートリトンボ、カトンボ、カートンボ、ヤブ、ヤブトンボ (計7種)
- ・ その他 昼間は藪にいて、夕方に現れ蚊を捕食する大型トンボ類を表す呼び名としてまとめた。



エ 尾部が細い小型トンボ類

- ・ 対象種 イトトンボ類、モノサシトンボ類、アオイトトンボ類のトンボ
- ・ 採録した呼び名 イトキリトンボ、イトトンボ、イトヒキトンボ、イトヨリトンボ、カワトンボ、ハリガネトンボ、ハリトンボ、ヒメトンボ、ミズヒキトンボ (計9種)



③ 生息場所での区別からの呼び名

ア 川辺・水辺にいるトンボ類

- ・ 対象種 ニホンカワトンボ、アサヒナカワトンボ等 (ハグロトンボの呼び名の中で、川辺・水辺に関係しないを除く。)
- ・ 採録した呼び名 カワスミトンボ、カワトンボ、カワラトンボ、クルマトンボ、チャトンボ、ミズトンボ (計6種)



イ 藪等日陰にいるトンボ類

- ・ 対象種 オハグロトンボ、ヤブヤンマ等
- ・ 採録した呼び名 カゲトンボ、ミヤサントンボ、ヤブ、ヤブトンボ (計4種)



④ 飛翔時期等での区別からの呼び名

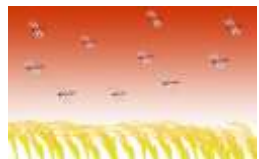
ア 盆時期以降に飛ぶ黄色又は朱色がかったトンボ

- ・ 対象種 ウスバキトンボ
- ・ 採録した呼び名 オショライトンボ、オショロサン、オショロトンボ、キートンボ、コガネトンボ、シューナトンボ、シューロトンボ、ショーロトンボ、ショーロートンボ、ボントンボ (計10種)



イ 秋の夕方に群れて飛ぶトンボ類

- ・ 対象種 アキアカネ、ナツアカネ、ミヤマアカネ等
- ・ 採録した呼び名 アカトンボ、アカネトンボ、アキアカネ、アキトンボ、ニシカゼトンボ、ヒグレトンボ、ヒヨリトンボ、ユウグレトンボ、ユートンボ、ユーヤケトンボ (計10種)



⑤ 体色での区別からの呼び名

ア 赤色のトンボ類

- ・ 対象種 アキアカネ、ナツアカネ、ショウジョウトンボ等
- ・ 採録した呼び名 アカトンボ (計1種)



イ 青・黄緑色のトンボ

- ・ 対象種 アオヤンマ
- ・ 採録した呼び名 アオトンボ (計1種)



ウ 白・灰色のトンボ類

- ・ 対象種 シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、シオヤトンボ、コフキトンボ等
- ・ 採録した呼び名 シオトンボ、シオフリトンボ、シロトンボ、ハイイロトンボ (計4種)
- ※ シオカラトンボ類 に記載



エ 尾部の一部が白く見えるトンボ

- ・ 対象種 コシアキトンボ
- ・ 採録した呼び名 デンキトンボ、ヘータイトンボ、ホタルトンボ、ホータルトンボ (計4種)



オ 銀色のトンボ

- ・ 対象種 ギンヤンマ
- ・ 採録した呼び名 ギヤマントンボ、ギントンボ、ギンヤマトンボ、ギンヤンマ (計4種)
- ※ 銀色の大型トンボ から再掲



カ 黄(金)色のトンボ類

- ・ 対象種 ウスバキトンボ
- ・ 採録した呼び名 キートンボ、コガネトンボ (計2種)
- ※ 盆時期以降に飛ぶ黄色又は朱色がかったトンボ から再掲



キ 茶色のトンボ

- ・ 対象種 ニホンカワトンボ
- ・ 採録した呼び名 チャトンボ (計1種)
- ※ 川辺・水辺にいるトンボ類 から再掲



ク 黒色のトンボ

- ・ 対象種 ハグロトンボ
- ・ 採録した呼び名 オハグロトンボ、カラストンボ、クロトンボ、クロハネトンボ、クロバネトンボ (計5種)
- ※ ハグロトンボ から再掲



ケ 尾部が縞模様のトンボ類

- ・ 対象種 オニヤンマ、ヤンマ類、サナエトンボ類等のトンボ
- ・ 採録した呼び名 シマトンボ (計1種)
- ※ 大型のトンボ類一般 から再掲



⑥ 総合的な特徴での区別からの呼び名 (種別区分)

ア ハグロトンボ

- ・ 対象種 ハグロトンボ
- ・ 採録した呼び名 オハグロトンボ、カゲトンボ、カゲラトンボ、カゲロートンボ、カラストンボ、カワトンボ、カワラトンボ、クルマトンボ、クロトンボ、クロハネトンボ、クロバ



ネトンボ、ゴクラクトンボ、ネギサントンボ、ポキポキトンボ、ミズトンボ、ミヤサントンボ、メクラトンボ、ヤブトンボ、ヨートンボ（計19種）

イ シオカラトンボ類

- ・ 対象種 シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、シオヤトンボ、コフキトンボ等
- ・ 採録した呼び名 シオカラトンボ、シオトンボ、シオフリトンボ、シロトンボ、ハイイロトンボ、ムギカラトンボ、ムギワラトンボ（計7種）



ウ チョウトンボ

- ・ 対象種 チョウトンボ
- ・ 採録した呼び名 チョートンボ、ヒコーキトンボ（計2種）



⑦ その他のトンボ類

ア 「羽に茶色の班」のあるトンボ類

- ・ 対象種 ノシメトンボ、ミヤマアカネ、リスアカネ等
- ・ 採録した呼び名 コーロトンボ（計1種）
- ・ その他 「羽に茶色の班」のあるトンボ類として採録



イ 不明種

- ・ 採録した呼び名 アシナガトンボ、イチゴトンボ、カトンボ、カートンボ、カラトンボ、クソトンボ、コーカクトンボ、コーヤクトンボ、サムライトンボ、ハイカラトンボ、ヒューヒュートンボ（計11種）
- ・ その他 「カトンボ」、「カートンボ」は、小型のハッチョウトンボ、大型のカトリトンボ類のほか、ガガンボやウスバカゲロウ等トンボ類以外の昆虫類の可能性が残る。

※ 参考

ア 他種の呼び名

- ・ 対象種 カゲロウ類（成虫）
- ・ 採録した呼び名 イッスンサガリ、カカシ
- ・ その他 鈴鹿市広瀬町で清水の小川上を上下しながら飛翔するトンボ類のような昆虫として「イッスンサガリ」を採録したが、カゲロウ類成虫の呼び名とみられる。5月頃に、清水の小川上でたくさん飛び、「一寸下がり、二寸下がり、三度目に降りよ」と歌いながら箒を振ると、風で降りてきた、と言う。
その他、亀山市羽若町・亀田町で「カカシ」を採録した。

2) 主な種別毎の呼び名

① トンボ類 (総称)

ア 対象種

全てのトンボ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般 (成虫) トンボ
- ・ 幼虫 トンボノガンゴージ、ヤゴ、ヤゴロ
- ・ 水面上で飛翔又は産卵行動 スイスイトンボ
- ・ 交尾でリング状 クルマトンボ、ジンリキトンボ、リンリキトンボ

エ 生息及び呼び名の状況

幼虫は水生で、成虫となり大きな複眼を特徴として身近で飛翔する昆虫である。当時は大小多様なトンボ類が郡内全集落に生息した。

本類総称としては、「トンボ」の1種を採録した。

郡内全域で「トンボ」と呼ばれ、それ以外の呼び名はみられなかった。

幼虫の呼び名としては、「ヤゴ」や「ヤゴロ」をはじめ計3種を採録した。

郡内全域で一般的な和名である「ヤゴ」と呼ばれたほか、集落数としては限られるものの広い範囲で「ヤゴロ」がみられ、また西庄内町上野で「トンボノガンゴージ」も使われた。

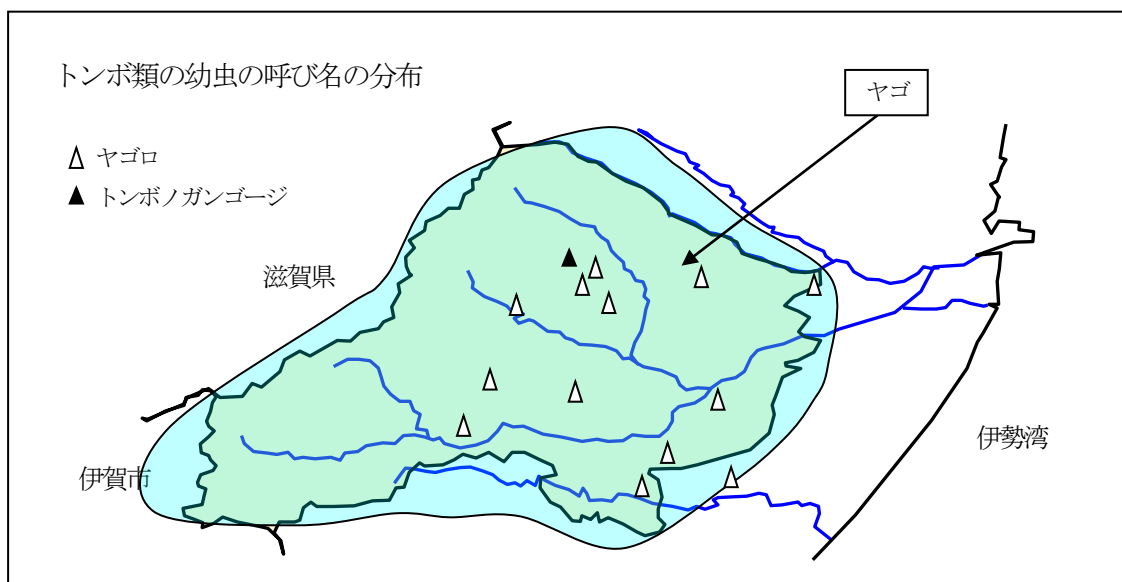
水面上での飛翔又は産卵行動をするトンボ類としては、郡内のほぼ全域で「スイスイトンボ」を採録したほか、主としてイトンボ類で交尾によりリング状となったものとしては、一部の集落で「クルマトンボ」、「ジンリキトンボ」、「リンリキトンボ」の計3種がみられた。

なお、当時、水田に生息し「ヤマメ」等と呼ばれた水生昆虫は、トンボ類の幼虫と広く認識されていたが、本調査では回答者の認識に関わらず他種として整理をした。

オ その他

聴き取りから、「トンボが家の中に入ってくると雨が降る」という諺・伝承等とともに、指を回しながら近づき捕る方法、セミと同様にクモの巣を幾重にも巻き付けた所に張り付けて捕る方法、20 cm~40 cm程度の間隔で糸の両端につないだ2つの小石をトンボの前に投げ、からませて捕るといった捕獲方法を採録した。

なお、他種で「トンボ」とつく呼び名として、「ミチオセトンボ」(:ハンミョウ)と「カマキリトンボ」(:カマキリ)を採録した。



② オニヤンマ (オニヤンマ科) 【大型のトンボ類一般】

ア 対象種 (同じ呼び名で呼ばれた種)

オニヤンマ、コオニヤンマ、オオヤマトンボ等
(オニヤンマ類、ヤンマ類、サナエトンボ類等)

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 黄色の縦縞模様 キートンボ、シマトンボ
- ・ 標準和名 オニヤンマ
- ・ 大型であること オニトンボ、オニヤマトンボ、オヤマトンボ、オヤマトンボ、オーヤマトンボ、カミナリトンボ、ゲンジトンボ、トノサマトンボ、トノサントンボ、ヤマトンボ、ヤンマ、ヤンマトンボ
- ・ その他 カートンボ、ラッポ、ラッポトンボ



エ 生息及び呼び名の状況

初夏から秋にかけて見かけられ、低空での飛翔やホバリング (空中停止) 等が特徴の大型のトンボであり、当時は郡内全集落に生息した。

対象種としては、オニヤンマのほか、コオニヤンマ、オオヤマトンボといったヤンマ類、サナエトンボ類等の大型で尾部が縞模様のトンボがあげられる。

本種の呼び名としては、「ヤマトンボ」や「オニトンボ」をはじめ計 18 種を採録した。

郡内のほぼ全域で主として「ヤマトンボ」と呼ばれたほか、集落内でもいくつかの呼び方をされたようで「オニトンボ」や「ゲンジトンボ」、「トノサマトンボ」、「ヤンマ」等とも呼ばれ、また一部の集落では体の黄色い縦縞から「シマトンボ」、その他「ラッポトンボ」等もみられた。こうした呼び名については、一部の集落で小枝への留まり方等から種別を説明する場面がみられたが、ほとんどの集落で分けや使い分けははっきりとしない。

オ その他

聴き取りから、「ヤマトンボが家の中に入ってくると雨が近い」という諺・伝承等とともに、次の捕獲方法を採録した。

- ・ 雌のヤマトンボを捕まえ、竹の先に糸をつけそれを飛ばせ、ホーホー言いながら歩き、雄がかかってきて絡まったところを捕まえた。
- ・ ヤマトンボは、2 個の小石を一定の長さの糸の両端に結びつけ、近くに投げ、餌と勘違いして、絡み付いてきたのを捕った。



③ ギンヤンマ (ヤンマ科) 【銀色の大型トンボ】

ア 対象種

ギンヤンマ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色・大型であること ギヤマトンボ、ギントンボ、ギンヤマトンボ
- ・ 標準和名 ギンヤンマ

エ 生息及び呼び名の状況

春から秋にかけて見かけられ、黄緑色の頭部と胸部を持つ大型トンボであり、当時は郡内全集落に生息した。

体色の違いからオニヤンマ等の他種と区別しよく認識されたトンボであった。

本種の呼び名としては、「ギンヤマトンボ」や「ギントンボ」をはじめ計4種を採録した。

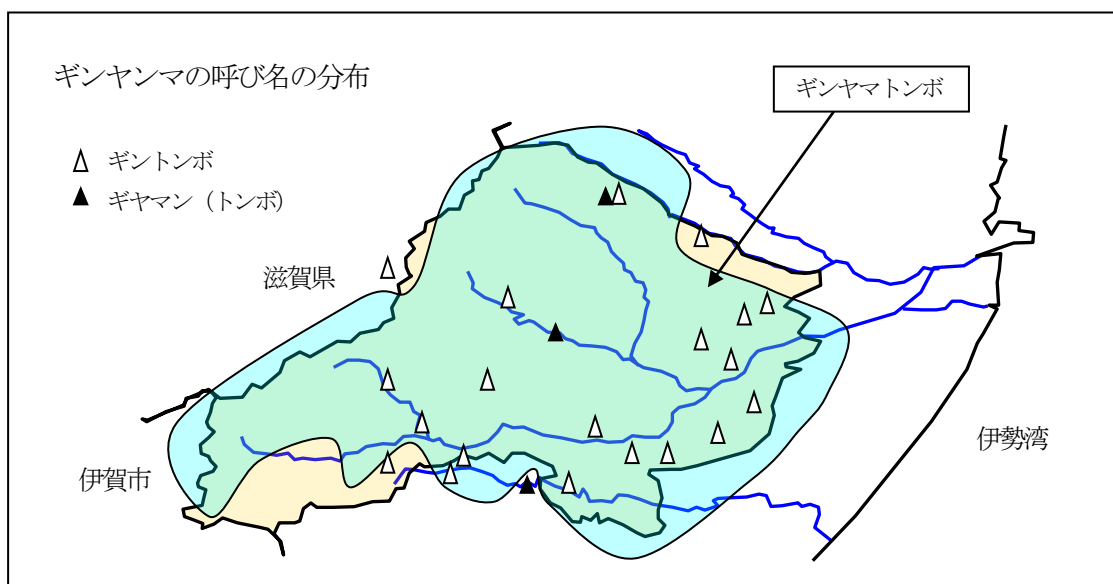
当時、郡内のほぼ全域で主として「ギンヤマトンボ」と呼ばれたほか、「ギントンボ」とも呼ばれたようであり、また一部の集落で「ギヤマトンボ」がみられた。

なお、隣接地域として調査を行った楠平尾町では「ギヤマン」を採録したが、郡内を含め集落数としては少ないものの点在してみられたことから、広域性を持った呼び名である可能性が残る。

オ その他

聴き取りから、次の捕獲方法を採録した。

- ・ ギンヤンマを1匹捕まえ、小石をつけた糸をくくりつけ空にほうり上げると、飛んでいった他のギンヤンマが絡みついて、団子状になって落ちてきたものを捕った。



④ カトリヤンマ (ヤンマ科) 【夕方に飛び蚊を捕食する大型トンボ類】

ア 対象種 (同じ呼び名で呼ばれた種)

カトリヤンマ、ヤブヤンマ等

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 蚊を捕食 カークイトンボ、カトリトンボ、
カートリトンボ、カトンボ、カートンボ
- ・ 藪にいる ヤブ、ヤブトンボ
(※ ヤマトンボ等)

エ 生息及び呼び名の状況

夏から晩秋にかけて見かけられ、主として夕方に現れ、蚊を捕食すると認識された大型のトンボであり、当時は郡内のほぼ全集落に生息したものとみられる。

対象種としては、カトリヤンマ、ヤブヤンマ等があげられる。

本種の呼び名としては、「カークイトンボ」や「カトリトンボ」をはじめ計7種を採録した。

集落数としては多くはないものの、郡内のほぼ全域で蚊を捕食することから「カークイトンボ」、「カトリトンボ」等と呼ばれ、また、昼間はよく藪に留まっていたことからの「ヤブトンボ」も同様にみられた。

なお、大型のトンボ類として採録し、主な種別毎の区分としてオニヤンマの呼び名とした「ゲンジトンボ」についても、集落 (関町市瀬) によっては本種であるような説明がみられた。

また、本類は夕方など実際に飛翔している時には尾部の縦縞からオニヤンマと同様にみられ、「ヤマトンボ」等とも呼ばれたものとみられる。



⑤ アオヤンマ (ヤンマ科) 【青・黄緑色のトンボ】

ア 対象種

アオヤンマ

イ 生息情報

一部の集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色 アオトンボ

エ 生息及び呼び名の状況

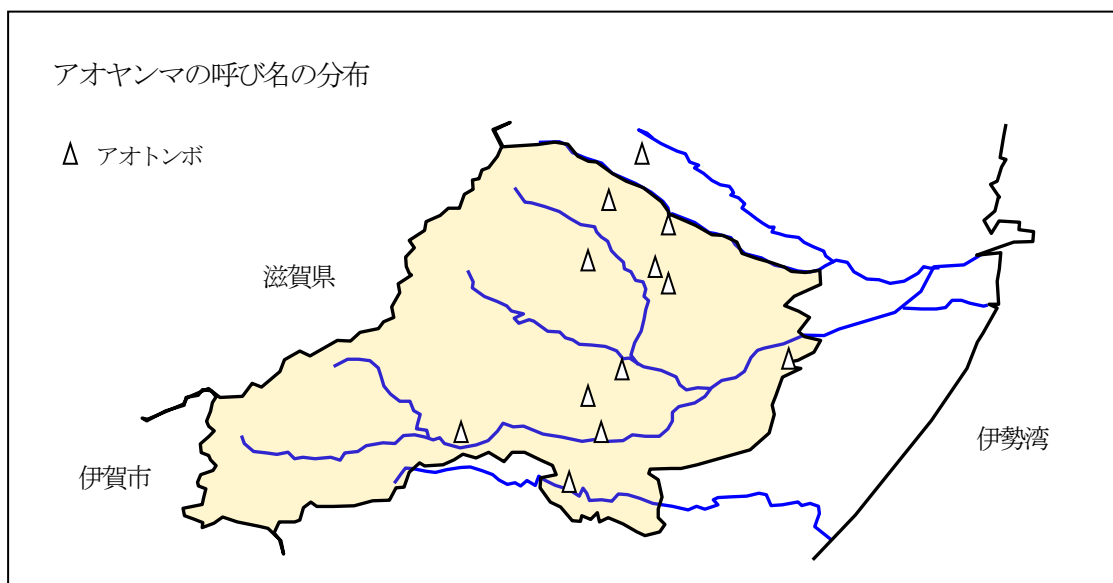
初夏から夏にかけて見かけられ、体色が黄緑から青味がかかる大型のトンボである。

当時は郡内のほぼ全集落に生息したものとみられるが、聴き取りからははっきりとしない。

本種の呼び名としては、「アオトンボ」の1種を採録した。

他の呼び名はみられず、集落数としては少ないものの郡内の広い地域に点在する形で「アオトンボ」がみられ、郡域で共通した呼び名であったものと考えられるが、誰もが使ったという一般的な呼び名ではなかったようである。

なお、この呼び名は主として大正時代生まれの男性の高齢者を中心に採録した。



⑥ イトトンボ類（イトトンボ亜目）【尾部が細い小型トンボ類】

ア 対象種（同じ呼び名で呼ばれた種）
イトトンボ類、モノサシトンボ類、
アオイトトンボ類等のトンボ

イ 生息情報
全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般的な和名 イトトンボ
- ・ 細い体の形状 イトキリトンボ、イトヒキトンボ、イトヨリトンボ、ハリガネトンボ、ハリトンボ、ミズヒキトンボ
- ・ その他 カワトンボ、ヒメトンボ



ホソミイトトンボ

エ 生息及び呼び名の状況

春から晩秋にかけて比較的長い期間見かけられ、糸のように細い胴体とともに比較的小さな透明の羽を持つ多種からなるトンボ類であり、現在も郡内のほぼ全集落に生息する。

対象種としては、イトトンボ類、モノサシトンボ類、アオイトトンボ類のトンボがあげられるほか、カワトンボ類の雌も同様に呼ばれたものとみられる。

本類の呼び名としては、「イトトンボ」や「ハリガネトンボ」をはじめ計9種を採録した。

集落内でもいくつかの呼び方をされたようで、郡内全域で一般的な和名である「イトトンボ」や「ハリガネトンボ」と呼ばれたほか、集落数としては限られるもののほぼ全域で「イトヒキトンボ」や「イトヨリトンボ」、「ミズヒキトンボ」とも呼ばれた。

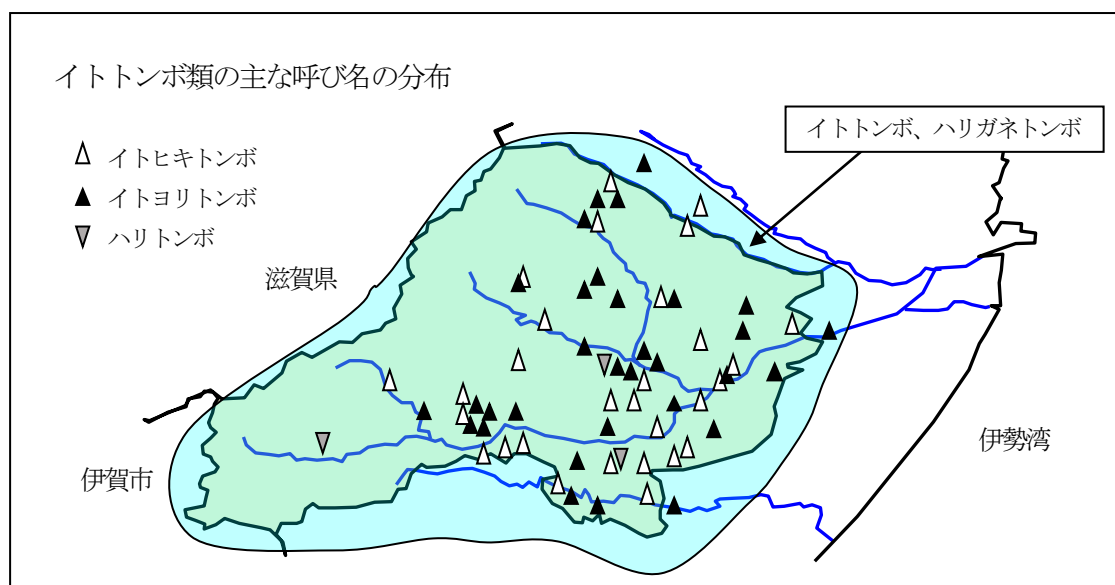
その他、一部の集落で「ハリトンボ」、「ヒメトンボ」がみられた。

こうした呼び名は、その種別毎の区分や使い分け等ははっきりとしない。

なお、隣接地域として調査を行った土山町山女原では「シリナガトンボ」を採録した。

オ その他

聴き取りから、イトトンボに糸を付けて飛ばして遊んだ、という話を採録した。



⑦ ニホンカワトンボ (カワトンボ科) 【川辺・水辺にいるトンボ類】

ア 対象種 (同じ呼び名で呼ばれた種)

ニホンカワトンボ、アサヒナカワトンボ、ミヤマカワトンボ等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 川辺・水辺 (生息場所) カワスミトンボ、カワトンボ、カワラトンボ、ミズトンボ
- ・ 羽色 チャトンボ

エ 生息及び呼び名の状況

春から夏にかけて、川、小川等の水辺で見かけられる羽の大部分が茶色く尾部の白く細い小型トンボであり、当時は郡内全集落に生息した。

対象種としては、ニホンカワトンボのほか、アサヒナカワトンボ、ミヤマカワトンボ等があげられる。

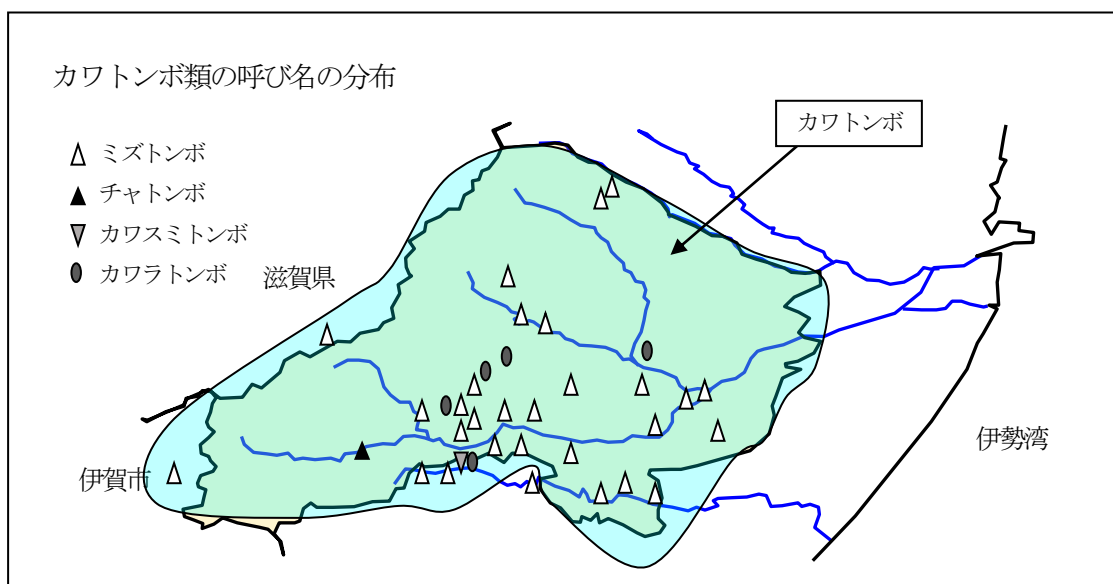
本種の呼び名としては、「カワトンボ」や「ミズトンボ」をはじめ計5種を採録した。

川、小川等の水辺でよく見かけられることから、郡内のほぼ全域で「カワトンボ」又は「カワラトンボ」と呼ばれたほか、広く「ミズトンボ」とも呼ばれた。

その他、下加太で茶色い羽色からの呼び名である「チャトンボ」、また関町古厩で「カワスミトンボ」がみられた。

なお、「ミズトンボ」は人によっては①で記述の水面上の飛翔又は産卵行動するトンボ類の呼び名である「スイスイトンボ」と同様な使い方をされることもあったようである。

また、カワトンボ類の雌は羽の色が無色であり、イトトンボ類の呼び名で呼ばれたものとみられる。



⑧ ハグロトンボ (カワトンボ科) 【総合的な特徴での区分からの呼び名】

ア 対象種

ハグロトンボ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

a 羽色 オハグロトンボ、カラストンボ、クロトンボ、クロハネトンボ、クロバネトンボ

b 生息場所

- ・ 日陰 カゲトンボ
- ・ 藪 ヤブトンボ
- ・ 神社 ネギサントンボ、ミヤサントンボ
- ・ 川・水辺 カワトンボ、カワラトンボ、ミズトンボ
- ・ 水車小屋 クルマトンボ

c ふわふわとした飛び方 ゴクラクトンボ

d その他 カゲラトンボ、カゲロートンボ、ポキポキトンボ、メクラトンボ、ヨートンボ

※ 交尾の姿から クルマトンボ、ジンリキトンボ、リンリキトンボ

エ 生息及び呼び名の状況

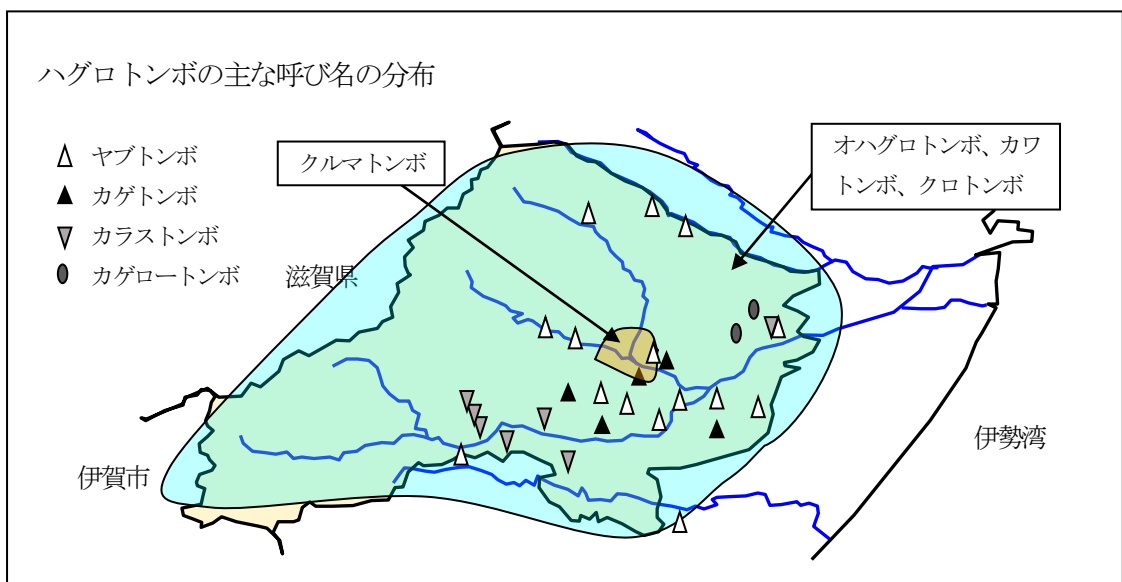
夏を中心に藪や木陰、川沿いなどでよく見かけられる羽の黒いトンボであり、当時は郡内全集落に生息した。羽が黒いことに加え、ふわふわと飛翔するとともに、葉などに留まると羽を開いたりたたんだりする特徴から、他種のトンボ類と区分してよく認識されていた。

本種の呼び名としては、「クロトンボ」や「オハグロトンボ」をはじめ計19種を採録した。

身近なところで目立つトンボであったことから、郡全体でも多くの呼び名で呼ばれたとともに、集落内でもその特徴からいくつかの呼び名がみられる場合があった。

郡内のほぼ全域で、黒い羽色から「オハグロトンボ」、「クロトンボ」、生息場所から「カワトンボ」、「ミズトンボ」、またふわふわと飛ぶことから「ゴクラクトンボ」と呼ばれたほか、集落によっては、羽色から「カラストンボ」、生息場所から「カゲトンボ」や「ヤブトンボ」、「ミヤサントンボ」等がみられた。また、川崎地区では水車小屋の近くでよく見かけられたことから「クルマトンボ」とも呼ばれた。

なお、交尾でリング状となったトンボ類の呼び名である「ジンリキトンボ」、「リンリキトンボ」等も本種との関係が深かった。



⑨ シオカラトンボ（トンボ科）【総合的な特徴での区分からの呼び名】

ア 対象種（同じ呼び名で呼ばれた種）

シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、シオヤトンボ、コフキトンボ等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 雄（白・灰色） シオカラトンボ、シオトンボ、シオフリトンボ、シロトンボ、ハイイロトンボ
- ・ 雌（薄茶色） ムギカラトンボ、ムギワラトンボ



エ 生息及び呼び名の状況

春から秋にかけて数多く見かけられる最も身近で一般的なトンボであり、現在も郡内全集落到に生息する。灰色の雄、薄茶色の雌というように雌雄で体色が分れ、ハグロトンボと同様に他種のトンボ類と区分してよく認識されていた。

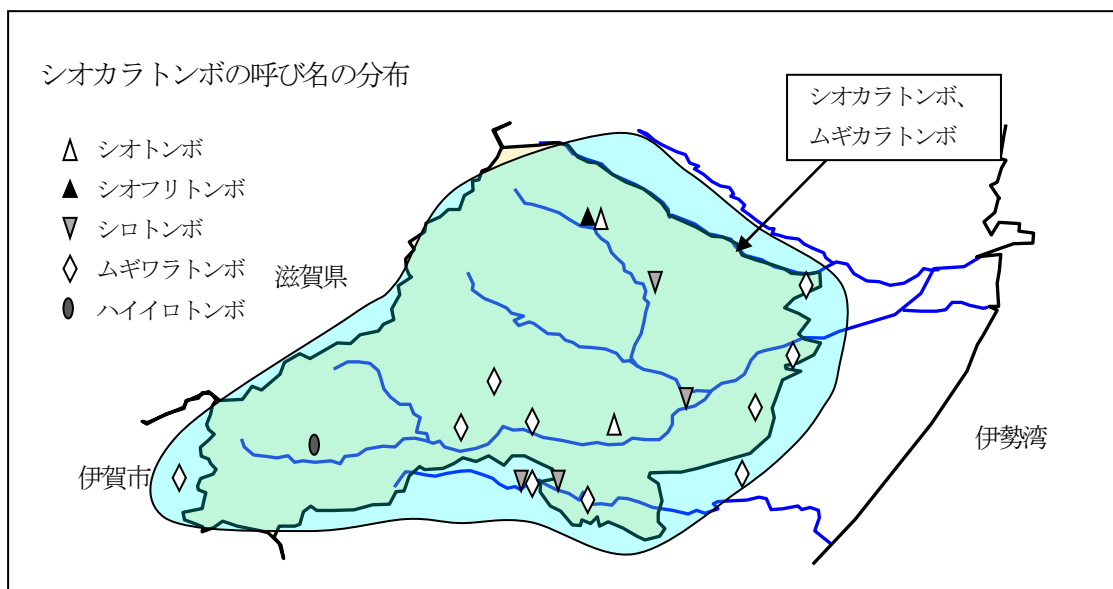
対象種としては、シオカラトンボのほか、オオシオカラトンボ、シオヤトンボ、コフキトンボ等があげられる。

本種の呼び名としては、「シオカラトンボ」や「ムギカラトンボ」をはじめ計7種を採録した。

郡内のほぼ全域で体色により灰色の雄のトンボが「シオカラトンボ」と呼ばれたほか、白色が強い個体は一部の集落で「シオトンボ」、「シオフリトンボ」、「シロトンボ」等と呼ばれる場合がみられた。

また、茶色い雌のトンボは「ムギカラトンボ」又は「ムギワラトンボ」と呼ばれた。

なお、「シオカラトンボ」と「ムギカラトンボ」は別種とみなされていたようであった。



⑩ ウスバキトンボ (トンボ科) 【盆時期以降に飛ぶ黄色又は朱色がかったトンボ】

ア 対象種

ウスバキトンボ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色 キートンボ、コガネトンボ
- ・ 出現時期 オショライトンボ、オショロサン、オショロトンボ、シューナトンボ、シューロトンボ、ショーロトンボ、ショーロートンボ、ボントンボ



エ 生息及び呼び名の状況

盆や秋になると集団での飛翔がしばしば見かけられたという黄色又は朱色がかった体色の小型トンボであり、当時は郡内全集落に生息した。

本種の呼び名としては、「ショーロトンボ」や「キートンボ」をはじめ計10種を採録した。

郡内のほぼ全域で「シューロトンボ」又は「ショーロトンボ」と呼ばれたほか、集落数としては限られるものの広い地域で体色からの「キートンボ」や「コガネトンボ」もみられた。

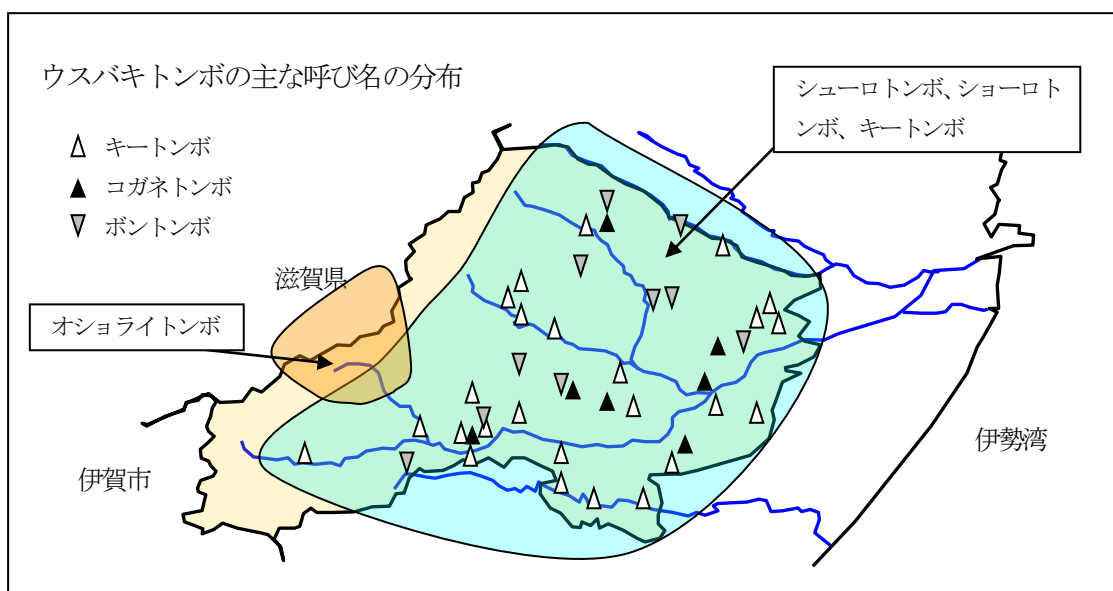
また、集団での飛翔が見かけられる時期から、一部の集落で「ボントンボ」と呼ばれたほか、「オショロサン」や「シューナトンボ」もみられた。

なお、隣接地域として調査を行った土山町山女原及び同町山中では「オショライトンボ」を採録し、関町坂下はその影響とみられる。

オ その他

聴き取りから、次の諺・伝承等を採録した。

- ・ 「シューナトンボが飛ぶと秋」



⑪ コシアキトンボ（トンボ科）【体色で区別された呼び名（尾部の一部が白く見えるトンボ）】

ア 対象種

コシアキトンボ

イ 生息情報

ほとんどの集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 目立つ白色等の腹部 デンキトンボ、ホタルトンボ、ホータルトンボ
- ・ その他 ヘータイトンボ

エ 生息及び呼び名の状況

初夏から秋にかけてため池等の水面上をよく飛翔するとともに、腹部の付け根部分にはっきりとした白又は黄色く見える部分があるトンボである。



当時は郡内のほぼ全集落に生息していたとみられ、現在でもため池上で飛ぶ姿がしばしば見かけられる。

本種の呼び名としては、「ヘータイトンボ」や「ホタルトンボ」をはじめ計4種を採録した。目立つ白色等の腹部の特徴から集落数としては限られるものの郡内のほぼ全域で「ホタルトンボ」や「ヘータイトンボ」と呼ばれた。こうした呼び名は誰もが使ったという一般的なものではなかったが、郡内で共通した呼び名となっていたようである。

また、一部の集落で「デンキトンボ」がみられた。

なお、生息場所がため池等に限られ人家の近くでは見かけられないため、他のトンボに比べ住民の認識が若干低かったようで、呼び名が採録できなかった集落も一定数みられた。



⑫ アキアカネ（トンボ科アカネ属）【秋の夕方に群れて飛ぶトンボ類・赤色のトンボ類】

ア 対象種（同じ呼び名で呼ばれた種）

アキアカネ、ナツアカネ、ミヤマアカネ等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色（一般的な和名） アカトンボ
- ・ 好天気 ヒヨリトンボ
- ・ 出現時期（季節） アキトンボ
- ・ 出現時期（時刻） ヒグレトンボ、ユウグレトンボ、ユートンボ、ユーヤケトンボ
- ・ 出現時期（風向） ニシカゼトンボ
- ・ 標準和名等 アカネトンボ、アキアカネ



エ 生息及び呼び名の状況

秋になると集団での飛翔が目立つ小型の赤いトンボであり、現在も郡内全集落に生息する。

対象種としては、アキアカネのほか、アカネ属のトンボ等があげられる。

本種の呼び名としては、「アカトンボ」や「ユーヤケトンボ」をはじめ計10種を採録した。

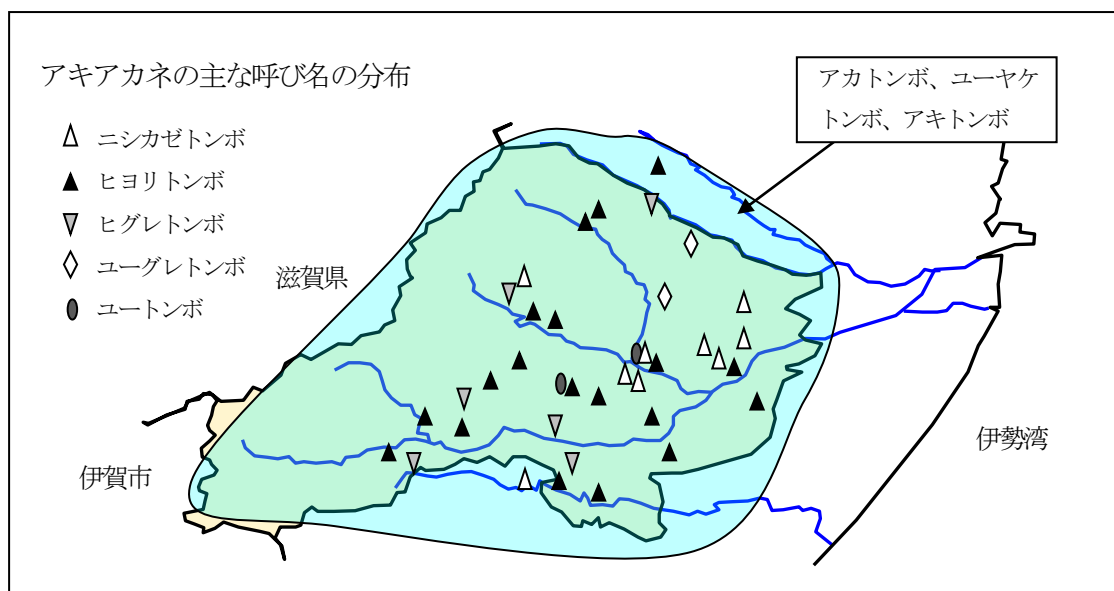
集落内でも様態や場面等によりいくつかの呼び方をされたトンボであり、郡内全域で赤い体色とともに唱歌などから一般的な和名である「アカトンボ」と呼ばれたほか、「アキトンボ」、「ユーヤケトンボ」とも呼ばれた。また、集落によっては好天気に関係した「ヒヨリトンボ」、出現時期から夏から秋にかけての風向きの変化に関係した「ニシカゼトンボ」、よく夕方に見かけられたことからの「ヒグレトンボ」、「ユウグレトンボ」等もみられた。こうした呼び名は本種だけではなく同様に群れて飛んだ他種を含むものであったと考えられる。

なお、本種を含めアカネ属のトンボ類も盆時期から多く飛翔したことからウスバキトンボの呼び名とした「ボントンボ」も本種を指す場合があったものとみられる。

オ その他

聴き取りから、次の諺・伝承等を採録した。

- ・ 「西の山からアキアカネが飛んでくると秋の始まり」
- ・ 「火傷の妙薬なんじゃいな、アカトンボの黒焼きさ」
- ・ 「アカトンボを捕る（又は 触る）と目が悪くなる」
- ・ 「アカトンボはオシヨロさんの使いで捕ったら目が悪くなる」



⑬ チョウトンボ（トンボ科）【総合的な特徴での区分からの呼び名】

ア 対象種

チョウトンボ

イ 生息情報

一部の集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 高い所を飛ぶこと ヒコーキトンボ
- ・ 標準和名等 チョートンボ

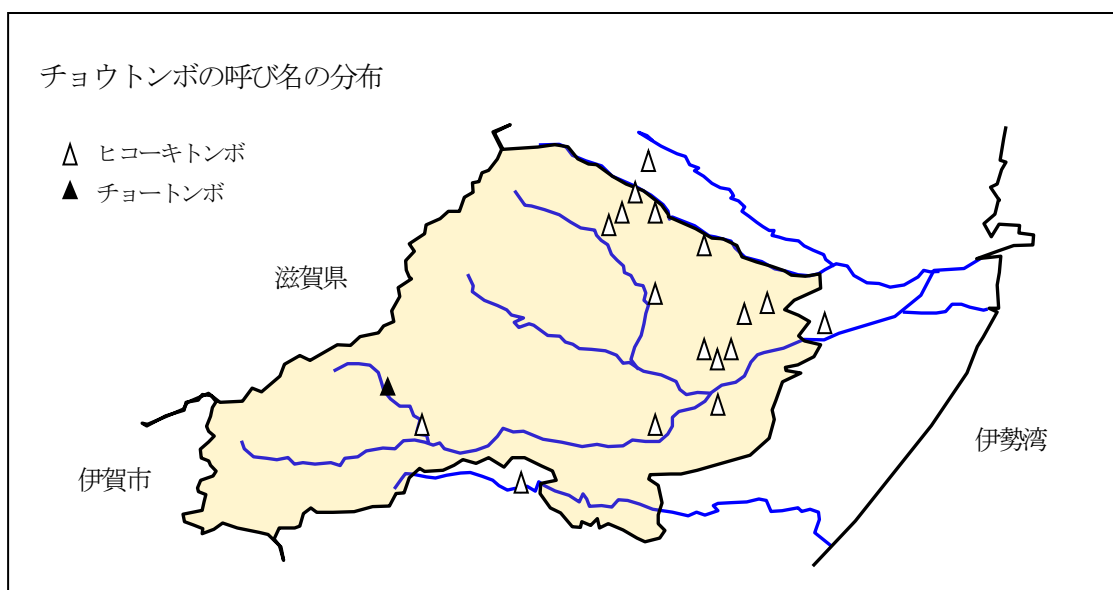
エ 生息及び呼び名の状況

夏の早い時期に、比較的高い所をチョウのようにひらひらと飛ぶトンボであるという。

当時は郡内のほぼ全集落に生息したと考えられるが、住民の認識は低く、生息状況としてははっきりとしない。

本種の呼び名としては、「ヒコーキトンボ」と「チョートンボ」の計2種を採録した。

郡東部の高津瀬・石薬師地区から椿・久間田地区を中心に「ヒコーキトンボ」と呼ばれたほか、関町坂下で「チョートンボ」がみられた。



⑭ ノシメトンボ、ミヤマアカネ、リスアカネ等（トンボ科アカネ属）【その他のトンボ類】

ア 対象種（同じ呼び名で呼ばれた種）

ノシメトンボ、ミヤマアカネ、リスアカネ等

イ 生息情報

不明

ウ 採録した呼び名

- ・ コーロトンボ

エ 生息及び呼び名の状況

現在でも秋によく見かけられるトンボであり、
当時も郡内全集落に生息したものとみられる。

本類の呼び名としては、「コーロトンボ」の1種を国府町西之城戸で採録した。

多く生息したトンボであり、秋には「アキトンボ」等の総称で呼ばれていたものとみられる。



ノシメトンボ